

沖縄から世界最高のコーヒーを

沖縄では、現在約40農家のコーヒー生産者がいますが、本格的な出荷ベースに至っている農家は、ほとんどいません。現在、沖縄本島南部、中部、北部、久米島、宮古島、石垣島などで無農薬のコーヒー栽培が行われています。コーヒーは栽培、収穫、選別、乾燥、脱穀、焙煎と苗から3年、種から収穫までは5年かかるといわれています。また、台風に弱いので、暴風対策が必要となってきます。カリブにあるキューバやジャマイカもハリケーンで有名な場所なのですが、ジャマイカのブルームウンテンをやキューバのクリスタルマウンテンという品種があり、有名です。

沖縄のコーヒーは、主にアラビカ種ムンドノーボという品種で、イエローとレッド種があります。

沖縄のコーヒーは、コーヒーベルトの最北端に位置し、宮古島とキューバは緯度がほぼ同じに位置しています。

1本の成木からは約1kgの生豆生産が可能で、1kg = 2万円の出荷価格となり、1,000坪 = 1,000本で年間2,000万円の売上が可能となり、珈琲専門店では、1杯10g = 2000円ですから10倍の20万円の売り上げとなります。(100g = 2,000円計算)

●コーヒーができるまでは約3年かかりますので、沖縄コーヒー協会ではファンドオーナー制を検討中



栽培>



開花>



結実>



収穫>



選別>



パーチメント>



脱穀して生豆に>



焙煎>



出荷>



珈琲専門店の展開